

Clinical Academic Topics

口腔機能低下症

矢追インパクト療法(YIT)による口腔機能の改善

Improvement of oral dysfunction

東京渋谷 山脇診療所
Yamawaki Clinic

山脇 昂
Takashi Yamawaki

- ① 「私、気が付いたら、硬い煎餅をがりがりと食べれるようになっていた。」と72歳の女性が言った。これこそまさに口腔機能の改善だと思います。この方は腰痛・肩こりにYITをやっていたら、「腰の筋肉が付いて来た」と言う。「顔の両側の笑窪にも打ってほしい」と言われ打っていた。多分本人の考えは笑窪を埋めたいと思っていたのではない。YITをやる前まではそんな硬い物をガリガリ食べられるなんて思ってもいなかった。無意識に避けていた。その事を疑問にも思わず、普通だと思っていた。笑窪はそのまま残っている。色白となり若い方へ戻っています。
- ② 80歳前後の別の女性。骨粗鬆症で腰が逆U字状に曲がり、目が見えにくくなりました。近所の整形外科医院で骨粗鬆症のための点滴を28回受けた。受けるたびに体の調子が悪くなり、目も見え難くなったと言う。腰椎圧迫骨折・変形性股関節症で人工股関節に置換されている人ですが、今は少し跛行があり杖を付いて歩いているが、視力も回復し、外見上腰の曲がりもなく、背中の中もぷりぷりしている。顎関節部、顎・頬にも打っていたら、「私、長年噛んでも上下の歯が合わない(咬合障害)あり、ガクガクする顎関節症だったし、三叉神経痛が繰り返し酷かったがYITをやるようになったら、そういうことが全然なくなった」と言う。
- ③ 60歳前後の男性。整体師をやっておられる。10年位前に下前歯の治療で歯茎に局所麻酔された。その麻痺が残り滑舌が悪くなった。有名大学を受診したが治らず、喋るのが億劫だった。YITをやったら、まったく苦も無く元に戻った。
- ④ 93歳女性。10年ぐらいYITを1月1回やっているが、腰も曲がっていない、新聞も眼鏡かけずに読める。硬い煎餅を持って来てくれたが、「貴方はこのピーナツの入った硬い煎餅を食べれるのか?」と聞いてみた

ら、「食べれる」と言う。先日左上歯茎から膿が出て顔が腫れあがった。歯槽膿漏と言われ歯科医院で治療した。「明日また歯科医院受診するので顔の腫れている部分にYITをやってほしい」と言うのでやった。

口腔機能低下症は本人にも気づき難いまま、口唇を動かす筋力の低下、噛む力の低下・不足、舌を動かす力・口蓋を圧する力の低下による話す能力（滑舌）の低下、嚥下機能の低下、唾液分泌低下による口腔内乾燥・歯の痛み・歯肉炎・歯槽膿漏、味・匂い機能低下、咬合痛・障害、三叉神経による口内痛等が進みます。その改善の可能性がYITにあります。本人が意識していない口腔機能の劣化を、未病状態とも言うのだろうが、意識していないまま復活させる最も基礎的且つ根本的（Basic&Radical）な治療法です。

YIT の紹介

YITは元々子供のアトピー性皮膚炎・喘息・アレルギー性鼻炎等のアレルギー性疾患で30年以上前から故矢追博美先生（平成27年2月没）が現在行われている減感作療法の、長期間を要し、効果のなさ、薄さ、危険性を無くすべく、かつもっと効果的たらんと、現に使用できる数種アレルギーエキスを、アレルギー希釈液（鳥居）を用いて、10億倍～1兆倍等に超微希釈し、皮膚浅層（皮内）に0.01～0.05cc注射を数個～数十個、直径4～5mm程度のクワデルを作るだけの簡単な治療法です。

1種の焼灼療法であり、体温がすぐ0～1℃上昇し、大人の炎症性・疼痛性関節疾患等色々な病気に効く。この療法を顔面に打つと顔面局所循環を改善し歯茎・顎関節等を潤し、そ

れに続く体全体の体温を上げます。このことは新陳代謝の増加、即ち現在よりも若い方へ後戻りさせると言うことです。誰もがそんなこと起こるはずがないと考えている（若返り現象）が起こるのです。その為に何にでも効く療法なんてと、色々な学会や、出版社から拒否されて来ましたが、理由はこれです。体温が即時に0～1℃上昇するということは、免疫力がそれだけ向上することです。体の中のあらゆる修復を行う活力を与えられます。それがなんにでも効く理由であり、若返りの理由です。何科何科という区別は無くなります。元々そんな境界はないのです。人間が便利に区別し易くするために考え出した事です。そういう分けからはみ出しても何も問題ありません。

例えばここで述べました口腔機能劣化が次第に回復してきたら、どうでしょう。色々な物が又再び食べられるようになり、体力は次第に回復します。其の事がまさに若返りなのです。しかし本人は若返っても、その事を自覚しません。私は元々こうだったと言うことになり、何の疑問も問題も生じません。ある痛みが取れるとこんな治療のせいではない、自然に治ったんだと思い込みます。ある円背を治すと、私は元々こうだったと思うだけで何の疑問も本人には湧きません。個人の得た利得は余りにも大きく、把握しきれなく、大きな大きな金銭的利得を突然得ると、人はそのことを全く口に出さなくなる。YITはそういう最も基礎的且つ根本的（Basic&Radical）治療法なのです。したがって自分はどこも痛くもなく、身体的に問題なく、物事をぐいぐい推進してゆくことが出来る活力ある人あるいは時期にはこの療法は不適切で適応外です。

◆ Clinical Academic Topics ◆

歯は毎日磨いているけど、痛くなってきたとか、ぐらぐら動揺してきた時にこそこの療法を頬にやってみてください。歯肉炎にも歯槽膿漏にも痛みにも効くと思います。

矢追インパクト療法（YIT）は皮膚浅層（皮内）に0.01～0.05 cc注射を数個～数十個、直径4～5mm程度のクワデルを作るだけの簡単な療法ですが、矢追先生はこの小滴をホルモンやビタミンと同列に考え、インパクトン（impactan）と名づけました。そしてそれはアレルギーに悩む人でなくとも「生体は“適度な刺激”を“適度な間隔”で“繰り返し受ける”ことで、自ら健全な心身の状態を維持増進することができる」という矢追インパクト療法充電理論、Yaoi Impact Charging Theory（YICT）にたどり着きました。更にこの療法前後で患者さんの体温が上がり、リラクゼーションがもたらされ、アセチルコリン・アドレナリン・

ノルアドレナリン・セロトニン・ドーパミン・DHEA-Sなどの神経伝達脈管作動性物質 NeurotransmitVascloactivator（NTVA）が短時間に増加することを採血により、私費2億円を投じてしらべられた。脳波検査でも α 波が増加するのを証明された。なるほど患者さんは、少し沁みるような痛みが体中に広がってゆきますが、終わって立ち上がると、「あー気分が良くなった」と言います。血色も良くなっています。体温が上昇し、1/fのゆらぎ（矢追先生がよく言っていました）が起こるのです。若い肩こりの強い不眠症の女性にやると、「私、昨夜熟睡ではなく、爆睡しました」と言われます。これを何回も繰り返し経験すると〈若返り現象〉が起きます。ある肉食系の67歳女性は又生理が出てきたそうです。筋無力症の1種である眼瞼下垂や首たれ病（首下がり病）も直せます。